



徳成寺 寺ともから版 第180号 2021年12月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

先月9日に瀬戸内寂聴さんが99歳で亡くなりました。

かつて一度だけ、寂聴さんの青空説法に参加したことが

ありました。老若男女、それはそれは多くの方々がお集まり

でした。経典に説かれるお釈迦様の説法もこのようだったのかと

彷彿とさせるものがありました。説法の後には、恒例の質問コーナー。

参加者の方から数人がお悩みを寂聴さんにぶつけます。愛する家族を失った、

大病を患ったと深刻なお悩みが吐露されますが、寂聴さんがあっけらかんと

受けとめると、悩みが解決したわけではないけど、なんとかなるんじゃないかと

いう気持ちになれるから不思議です。そんな寂聴さんも、安保法制の時には

国会前でデモに参加し、反対を訴えていました。煩惱たっぷりでも、

立派な仏教徒でした。

-発行責任者-
住職
大山健児
坊守
大山ひとみ



大山超世の耳を澄ませば

お世話になっています、副住職です。

激動の2021年が終わろうとしています。今年も御門徒の皆様のおかげで無事に歳を越せそうです。振り返るといろいろなことがありました。昨年から引き続いてコロナと戦いながら引越し、御披露目、インタビュー記事の作成、寺とも企画と初めての経験を沢山させて頂きました。その中でも直近の初めては結婚記念日でした。あっという間の1年だった気がします。妻と暮らし始めて気づいた事はのんびりしているように見えて意外と行動力がある事でした。大きな筍を休日にアク抜きしたり、ハマチを捌いたり、渋柿を干したりしていました。初めての事に臆せずチャレンジしていく妻を見習いたいと感じた1年でした。来年もまたよろしくお願いします。写真は軒先に吊るした干し柿です。ピンチハンガーで上手に吊るしているので、美味しい干し柿になれば良いですね。皆様、良いお年をお迎えください。

